



プチポワ独占インタビュー

ファビアン・ワルゼ (Fabian WARZEE) 弁護士

プロフィール：ブリュッセル生まれ、在住
商法、会社法担当
ブリュッセル・フランス語圏弁護士会所属
使用言語：フランス語、オランダ語、英語

どうして大学で法律を勉強されたのですか？

法律は、僕に向いていると思っていました。なぜかという、僕にとって、人と話すこと、議論することといった人との交流はとても興味のあることでした。法律を学び、弁護士になることは僕の夢でした。弁護士という仕事は、僕にとってまさに「生き甲斐」です。

どの分野の法律を担当していますか？

商法、会社法、この二つの法律に特に関心を持っていて、主に担当しています。商法はとても奥深い法律で、ビジネスや商業に関連する法的な問題を含んでいます。会社法は、さらに特殊な法律で、担当するに当たり勤勉さと正確さを要求されます。

日々どのような内容の案件を担当していますか？

法律文書の作成や分析、契約のフォローアップをやっています。個人や商店の契約を賄うこともありますし、顧客の法的問題を解決するために、商業裁判所や地方裁判所に嘆願しに行くこともあります。会社法に関しては、会社を設立したり、会社運営のために代表者のアシスタントとして働いたり、株主協定を作成したり、また、会社の売買を担当したりしています。



会社設立のために何をすればいいのでしょうか？

まずは、どういった形の会社にするかを決めなければなりません。弁護士は、複数の会社形態を説明し、適切な会社を推薦します。そして、顧客の希望にあわせた定款を作成します。この手順を終えたら、公証人のもとで会社設立の手続きをし、公式に会社開設を公表します。会社を設立すると、納税義務、消費税、社会的義務が発生します。

会社がうまく運営されるためのアドバイスはありますか？

それぞれの会社形態は、異なっています。顧客の要求にあった形の会社を設立することが大切です。運営がスムーズに行くように、複数の規定を設立時に作っておくのがいいでしょう。将来の会社の運営にも影響を与えるので、このエタツプを軽視してはいけません。

すでに日本人と仕事をされたそうですね。仕事はどのように進みましたか？言葉の問題はありませんでしたか？

少し前に、業務提携における契約書作成の案件で仕事をしました。契約書は、英語で書かれていて、コミュニケーションも英語で行いました。日本の法律の考え方と、ベルギーのものとは異なりましたが、互いの理解はスムーズで、今回の案件は大変興味深いものでした。



今後も日本人との仕事をお考えですか？

日本人との法的文書に関連した仕事に、とても興味を持っています。すでに日本(東京、京都、大阪)へ行ったことがあり、僕が知っている慣習とは全く違い驚きました。日本へ実際に行ったこと、そして日本人の方と一緒に仕事できたこと、これらの経験は、僕の今後にとっても良い仕事をする糧になったと考えています。なので、今後も日本の方と積極的に仕事が出来たらと考えています。

もし日本人顧客が、フランス語も英語もできない人であれば、どうなりますか？日本語でコミュニケーションできる通訳の方はいらっしゃいますか？

法廷翻訳者はいますし、一般の日本語通訳者を知っています。弁護士と顧客のコミュニケーションは、この通訳者を通じて行うことができますので、コミュニケーションで問題が発生するとは思っていません。

弁護士を必要としている日本人へのアドバイスはありますか？

弁護士の主な仕事は、顧客へのアドバイスですが、法律面から経営コンサルタントも行っています。しり込みしないで、弁護士の意見を聞いてみてください。トラブルを未然に防ぐ方法、問題のスムーズな解決や、顧客を有利に導く手段などをご相談いただけます。是非、お手伝いさせていただきます。

連絡先：fabian.warzee@everest-law.eu
フランス語、オランダ語、英語、日本語でコンタクトしてください。